

DHが考えるべきマイクロスコープを用いたカリエス、ペリオの予防計画 Dental hygienist should think about caries and perio prevention plan using microscope

河合 竜志
けやき歯科クリニック

抄録

歯周病や虫歯は国民病と言われ、世界でも最も蔓延している病気の一つである。複雑な口腔内環境から、原因である細菌や汚染物質を除去してコントロールすることは難しく、依然として罹患率、再発率の高い疾患となっている。そこで近年、カリエスやペリオの診査、診断にマイクロスコープが積極的に用いられるよになり、その治療効果や予防効果の向上が期待されています。

マイクロスコープを用いて汚染物質を拡大すると器具を対象物に確実に接触させることが可能になり、取り残しも容易に確認できるようになります。また、繊細な器具操作が可能になることから、周囲組織の損傷を防ぎ、過度な器具操作によるオーバートリートメントをする危険性が低くなります。

しかし、正確な処置を最小限の侵襲で行える一方、確認操作を怠ると拡大視野下での処置の優位性が失われてしまいます。マイクロスコープの使用法としてポジショニングやミラーテクニック、器具操作方法などは、的確な処置を短時間で行うためには重要ですが、それよりも増して処置前後の確認操作を頻繁に行うことが重要です。対象物に器具先端を確実に接触させてから処置を行う意識を持つとオーバートリートメントを防ぎ、より優しい器具操作を実現できます。治療中は対象物を明瞭に捉え、ウォーター Spray や出血などの飛散物により盲目的な処置になってしまう場合は、手技を止め対象物が何処にあるのか再確認することが重要です。盲目的な処置は治療時間が長くなり患者負担を増加させる結果に繋がります。それらを回避するためには、マイクロスコープを使用する目的の基本である拡大視野下での診査、診断能力を身につけることが上達の鍵となります。

今回は、マイクロスコープを用いた拡大視野下での診査、診断について、皆さまの経験やアイデアについても意見交換できればと思っております。

略歴

1994年 日本大学松戸歯学部卒業

1999年 日本大学大学院終了 博士号取得

2002年 日本大学松戸歯学部 非常勤講師

2003年 けやき歯科クリニック開設 (茨城県龍ケ崎市) ” 90

Academic background & Professional career 日本顕微鏡歯科学会 認定、AMED 会員、日本臨床歯科学会 会員、日本臨床歯周病学会 会員、日本歯周病学会 会員 56